

小學讀本

杉浦重剛校閱
井上蘇吉編

二

178
4
95

館藏書會育教本日大			
六			二
六册	二號	五架	五函

K120.8
2

杉浦重剛校閱
井上蘇吉編

小學讀本

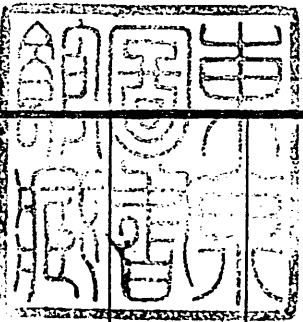
板權所有

澤屋藏版

明治二十年二月廿三日内務省交付

小學讀本卷之二

杉浦重剛校閱
井上蘇吉編



國盡

五畿内五箇國

山城

大和

河内

和泉

攝津

東海道十五箇國

小學讀本

卷之二

五

一

伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江

駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房

上總 下總 常陸

東山道十三箇國

近江 美濃 飛驒 信濃 上野 下野

岩城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前

羽後

北陸道七箇國

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後

佐渡

山陰道八箇國

丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲

小學 續 卷之二

石見いせ 隱岐おみ

山陽道さんやう 八箇國はつかこく

播磨はりま

美作みまさら

備前びぜん

備中びちゆう

備後びんご

安藝あき

周防すおう

長門あぐと

南海道なんかい 六箇國ろくかこく

紀伊きい

淡路あそぢう

阿波あは

讃岐さぬき

伊豫いよ

土佐とさ

西海道さいかい 九箇國くかこく

筑前ちくぜん

筑後ちくご

豊前ぶぜん

豊後ぶんご

肥前ひぜん

肥後ひご

日向ひやう

大隅おおすみ

薩摩さつま

三嶋さんとう

壹岐いぎ

對馬つしま

琉球りゅうきゆう

北海道ほくかい 十一箇國じゅういちかこく

小
學
續
大
學
三

渡嶋 膽振 日高 十勝 釧路 根室

後志 石狩 天鹽 北見 千嶋

三府

東京府 京都府 大坂府

五港

横濱 神戸 長崎 新潟 函館

縣名

神奈川 兵庫 長崎 新潟 埼玉 群馬

千葉 茨城 椽木 三重 愛知 静岡

山梨 滋賀 岐阜 長野 福嶋 宮城

岩手 青森 秋田 山形 石川 富山

福井 島根 鳥取 岡山 廣嶋 山口

佐賀 <small>さか</small>	和歌山 <small>わかやま</small>
熊本 <small>くまもと</small>	徳嶋 <small>とくしま</small>
宮崎 <small>みやざき</small>	高知 <small>たかち</small>
鹿島 <small>かじま</small>	愛媛 <small>えひめ</small>
沖繩 <small>おきなわ</small>	福岡 <small>ふくまか</small>
	大分 <small>おおいた</small>

第一課

行儀作法。

人ふ 交はるに 行儀作法 なかるべ
らば。 行儀とハ たちゐ城 つゝ志む城
いひ。 作法とハ たちゐの志ゐたを
いふ。 行儀を まもり 作法を 知らふ
こと 志ばらくも 日さるべあらば。

第二課

海軍。陸軍。

せかいふ 海軍の もつときつよきくに

の 以たりをふして 陸軍の つよたの
ふらんを。どつろ。ろくや等のくよぐあ
り。

第三課

都。鄙。町。村。

都の ともむ人 多くして ぶだはく。
鄙の ともむ人 すぐあくくろ めのきび
。 都の以屋つゞき茂 町と 以ひ。 鄙
の以へつゞた茂 村と以ふ。

第四課

圓。錢。厘。毛。

圓。錢。厘。毛の せに。かね茂 かぞふるふ
用ふる とおへなり。 すなはち 一圓の
百錢よ 阿たり。 一錢の 十厘よ 阿
たり。 一厘の 十毛ふ 阿たるなり。 圓
より上の べつよ とおへ なり。

第五課

料理。塩梅。

くひもの、 せりつぐらひ茂 料理と 以

小 學 讀 本 卷之二 六二

ひ。その志はあげん哉 塩梅や 以ふ。
やもよ みはあらひのよし阿しにそ
阿ぢでひのよきものも 阿しく なるな
り ありろうべし。

第六課

棺。墓。碑。塚。

棺よハ 人の志が以を 以き。墓よハ
棺哉 うづむ。碑ハ その墓の上に た
つる志るしあり。まよ。その土のもり阿

がりたる哉 塚と 以ふ。

第七課

貧。富。貴。賤。

ち急 阿れバ 富むべく 貴あるべし。
ち急 おけれバ 貧しく 賤しあるべ
し。ち急哉 うるまハ まぬぶのやあふ
みち 阿らび。

第八課

昆布。海苔。

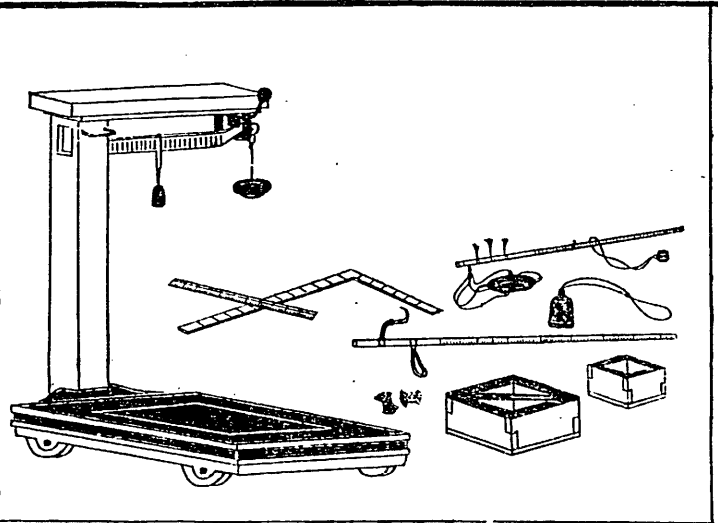
昆布と 海苔とい ちづきも 海にた

ゆるくさよして ほして しょくもつぎ
まるものなり。 昆布の 北海道の お
ほく せんし 海苔の 東京の ちかき
空ころのもの哉 まよとす。

第九課

猫。鼠。狐。狸。

鼠の 以へよ まみく そのと そまお
ふ。 之哉 ぬせぐふの 猫を もちふ。
狐と狸との のやまよ まみく たまた
を 阿られ。 之哉 とるに わねを も



第十課

度量權衡。

度は ものさしよとて
ものゝたす哉 はかる
に もちひ。 量ハ ま
まにしき ものゝかき

戒 もあるに ともあふ。 權の せかりの
たも里に 衡の そのさをと 以ふ。
權と衡とい せもよ ものゝ 災あれたを
はゐる だうぐあり。

第十一課

勸善懲惡。

善は ぬすむ。 惡の ぬすむからぬ。
人よ 善戒 まゝむるを 勸善といひ。
人の惡戒 さらむるを 懲惡といふ。

第十二課

火山地震害。

地震の ときく おほれたる害を
かまあと ありく せきはた おそるべ
きまのなり。 火山に ちかきとこ海
地震のうれひ おほく。 信濃の阿さま山。
肥後の阿そ山おどの 名だのき火山よ
て ふと山のおとれも むあゝも 火山
なりいと 以ふ。

第十三課

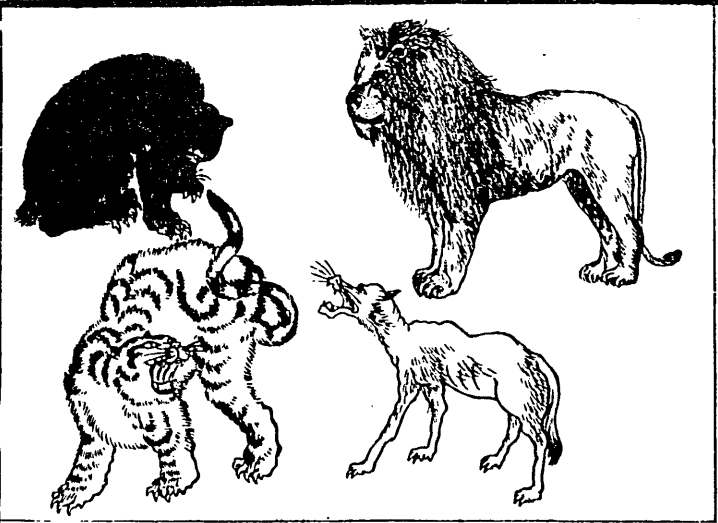
濱邊蛤貝種。

蛤ハ 貝の一種にうぐ 濱邊の人の志
不のひたゑるとき 多く 之哉 ひらふ。
そのみハ くらふと哉 うべく。その
からえ やまぐ 石むひそ おんべし。

第十四課

港灣岬燈臺。

海船はきを 港と いひ。 岬にを 灣
と 岬。 燈台はそ那の 海よ 岬でた



ると出ぬを 岬と 岬。 燈臺ハ 海船

の炎あてに おるべき
やもくびなり。

第十五課

獅子。虎。熊。狼。

獅子ハ けだもの、王
よしく 赤れよ つぐ
ものハ 虎なり。 いづ

れも わがくふゝ きんせだ。 熊と狼と
の わぶくにのたけきけだまのよしく
そだぐ 人成そふなふふ空あり。

第十六課

鳥。鶴。鴻。鷺。鷹。

鶴よハ ながたぐびとながき阿くと あ
り。 鴻ハ そのあー みぶかく ぶづれを
みな おほきおる鳥おれども 人の害を
おまこせ 少し。 鷺と鷹とい ちなま

だ阿らた鳥にしく 小鳥成 とりくらふ
いづれを ちるどたつ免成 もとり。

第十七課

蠶。繭。生糸。製。

蠶ハ くまのはよて 之成 やしかふ。
おひたつ空たよハ 繭成 つくる。 その
繭より 生糸成空り おりものを製す。
生糸を 己お空に ちい一の免いぎんよ
しく そのあたひ 貴とし。 蠶をそだて

繭をとるる 春と夏との 二度な
りとけ。

第十八課

田畑段畝歩坪。

田またの 畑のひろさ哉 よぶに 町段。
畝歩と 以ふ。一町の 十段より一
段の 十畝なり。一畝との 三十歩を
以ひ 一歩との 六尺四方を 以ふ。一
歩の まなはち いへぢめんの一坪なり。

第十九課

近所。遠國。旅行。

己のすまひよ ちかきやあかき哉 近所と
以ひ。己のすまひより せほき國を
遠國と 以ふ。遠國よ 行く哉 旅行の
以ふ。

第二十課

學問。勉強。怠時。

さひはひを うるよと哉 祿がはぶか
志あき人と ちらんこと哉 つとむべし。

か志大北人と ちらんよの 幼あき時
より 學問を 勉強しく ちあしも 怠
るおとれあれ。

第二十一課

郵便。電信。手紙。

こゝより 手紙を やりこ かしこよ
たより成 ちるよち 郵便あり。 又ちみ
やかよ たよりを ちるよち 電信あり。

第二十二課

晝夜。往來。繁昌。

東京。西京。大阪のおやく 大きなる町つゞ
きあるやちぬよての 晝夜ともに 人の
往來 はなをたおやく ちづまのみせも
みち 繁昌をるちる。

第二十三課

芋。甘藷。馬鈴薯。

甘藷の 薩摩芋またの琉球芋と ちひ。
馬鈴薯の ちやちのたら芋と ちふ。この
二つは やゝよよりたるものちちども

甘藷の阿ぢはひり せりあきあま。

第二四課

病氣。醫者。藥。命。

かろ死病氣なりとも かりそ免よまると
とあく。まみやのふ 醫者よ はあり
て 藥成 用ふべし。ゆだんまるときの
つひよ 命成 うくなふに いたるこ
とあり。

第二五課

杉。松。檜。樅。建築。

杉。松。檜。樅あとの そのま つねに あをし。
年成 ふれい 大木と ありき その
用 をなはだ ひぬし。多くい 建築に
用ふるなり。

第二六課

雁。鴨。雉。嘴。羽。足。

雁や鴨とま やもに水鳥よして ひらた
き嘴と みどあ死足成 もてり。足のゆ
びの 阿ひたに 水かき ありて 水を

およぐ城 うるあり。 雉の くぎむら

よ まみ。 まおは
だ うつくし羽
を もてり。

第二十七課

金。銀。銅貨。紙幣。
貨幣のハ 金貨。銀
貨。銅貨および紙幣



おど あり。 紙幣ハ 紙にき つくり。

金。銀。銅貨のかはりとしく もつばらも
のを うりのひまるよ 用ふるものをり。

第二十八課

旅籠屋。茶店。宿。

旅行する人の 夜々まる所城 旅籠屋と
以ひ。 晝。夜もむ所を 茶店と 以ふ。
旅籠屋と茶店多き所を 宿と 以ふ。

第二十九課

顯微鏡。望遠鏡。

顯微鏡の世に之哉。むく光の祿と
ひふ。ちひさきもの哉。おほきく。みる
こと哉。うべた目鏡あり。望遠鏡の世
よ。之を。空ほ光が祿と。ひふ。空ほき
空ほ光哉。ちかく。みる大と哉。う登
き。目鏡なり。

第三十課 魚。鮭。鱒。鮎。鮭。産。

鮭と鮎との多く海に産まる。小き

き魚よし。よしよくゆりよ。用ふるよ
阿まぎも。もつむら。その阿ぶら哉。志
ぼりて。魚燈や。なし。その志ぼ里か
の。大やしと。鱒と鮭や。川又の海
に。産ま。志ほづけ。阿るひ。くわん
づ免よし。ながく。たくはふる哉。う
べ。鮭。鮎。ひづきも。北海道の名
産なり。

第三十一課

虫。蟻。蜜蜂。蚤。蚊。

蟻の 去、海が多よくく、阿たものう
ち、よくもつを、たくはへ。蜜蜂の
ま、れうち、に、蜜、つくる。蚤と蚊を
の、人を、き、阿、地、虫にして、夏の
大、生る、ものなり。

第三十二課

鯨。脂。骨。肉。蠟。燭。

鯨の 海に、もつともおほきある

けだものにして、そのかたち、魚に、
たり。こ、とらふるに、もりを
用ふ。その肉の、くらふべく。その骨の
を、はぐ、此、用、あ、その脂の、
は、くる、うべ。

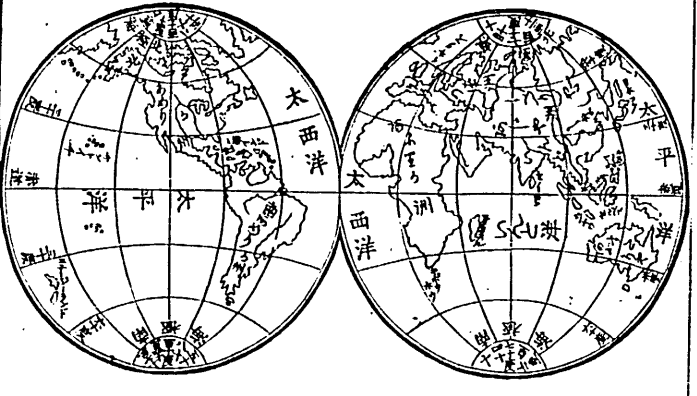
第三十三課

西洋。東洋。五大洲。

阿志や。阿ふ里か。えうろは。阿、りか。ね、
を、ら、を、五大洲と、ふ、ふ、

す。ぬらんま。ざんつ。なやい。えう。返つ。はの

東 半 球 西 半 球



國々みく。之。戎。西
洋の國と。んふ。日本。
志な。おどの。何とやの
國々みして。之を。東
洋の國と。んふ。西洋
よの。ひらけたる國
おなく。東洋よの。ひ

らけたる國。まくあし。

第三十四課

男。女。帶。指輪。櫛。笄。

あゝに。帶。指輪。櫛。笄の四しな。あり。
はゞのひ返たの。志ゆすの女帶よしと
はゞのせまたる。はあたおまの男帶あり。
指輪よの。金ふて。つくりたはもの
あり。銀よて。つくりたはもの。あり。櫛
と笄やの。おほく。べつあふよて。つを

りたるものあり。

第三五課

下駄。草履。靴。草鞋。

この國の人の はきまじよの そのたぐひ
はあそだ おほく つねにの 下駄。草履
靴など哉 まふへ用ふまども 旅行する
や死にの 多く 草鞋を もちふ。

第三六課

鐵鍋。釜。膳。椀。食物。

鍋。釜の 物哉 にた死するたうをよして

鐵よく 木れ哉 川をる。 椀の 食物
を もるうつはよして 木にく 木れ哉
つくる。 膳の 椀など哉 のする臺を
り。

第三七課

物價。高低。賣買。商。

物の價の 時々にかはると その高低。
をだまりおたきものをきば。 ものをれ
たる商人も まやく 物價の上り下り哉

きとま。志返ものを 賣買しきりえ
き残 ろるなり。

第三十八課

琴琵琶。笛。樂器。音。

樂器のみな それぐよもちまへの音
色 ありき。阿るひの 人の去、返残
やまらげ。阿るひの 人の去、返残
きまゝむ。琴。琵琶。笛の音の 志づのよ
て 阿いまへき 音色なり。

第三十九課

軍勢。樂隊。出陣。奏。



世よ 軍勢の出陣はむ
かぎまゝ知ものる
あし。樂隊の 奏まる
音樂も つねよ 阿は
まて 人の去、返を
まげまを音色阿り。去
の人々の 國の多々ふ

命をよむ をしまぬ まをら成なり。

第四十課

檉。檉。桐。黄楊。棒。板。

檉と檉とい もつともなたた木にしき
板。又の棒おどを つくるべし。 桐の か
詠くうつやはらあなる木にしき たんま。
机。又も下駄。足駄などを つくるあり。 黄
楊の きめ おまのふしき 櫛を つく
るに 用ふ。

第四十一課

米。麥。豆。穀類。鋤。鍬。

穀類とい 米。麥。豆。阿は。きびの類成らふ。
米のみは 田に つくし。 麥。豆。あは。きび
の類は 畑に つくる ものあり。 田。畑
成 るおへすよに 鋤。鍬などを もちふ。

第四十二課

兵隊。小隊。大隊。聯隊。

かしまよ おろく 兵隊の ならびたる
阿里。その人のむ。 はなを多きまひ

小隊よと阿らび。又大隊よと阿らむ。
二三大隊哉 阿はせたる 聯隊あらん。

第早三課

酒。味噌。醬油。酢。飲物。

酒。酢。醬油。ハ 必づれもみな 日用の飲物
なり。 酒。ハ 米より つくり 酢。ハ お
ほく 酒より つくる。 醬油。ハ 豆。麥。塩
はく 製。ハ 味噌。ハ 豆。かうぢ。塩にて
製。ハ 塩。ハ 山より 出る。おと阿きとも

多くの 海水より 之哉 やるなり。

第早四課

桑。葉。茶。楮。漆。植物。利。

桑。ハ その葉哉 やりそ 蠶哉 やり
ハ 生糸を やる。 茶。ハ その葉を や
り 之哉 かわりして 飲物とす。 楮。ハ
その皮を やりそ 紙哉 つくり。 漆
ハ そのしる哉 とりて 物をぬる。
必づれも 利の 多也 植物なり。

第四十五課

大工。左官。屋根。建具。家業。

大工の 家城 建く 左官の かべを
ぬるを 家業とい。 屋根を ふく。志よく
人城 屋根やを 以ひ。 ふま。志やうど
なぞ城 つくる人城 建具やと 以ふ。

第四十六課

騎兵。砲兵。歩兵。工兵。臺場。

兵隊の 馬に 比りたる城 騎兵と 以
ひ。 大砲城 つかきたる城 砲兵を 以ふ。

かちにく 鐵砲城 もつ城 歩兵と
以ひ。 臺場を 築き みちを ひらくお
ぞのふを城 町を城 工兵と 以ふ。

小學讀本卷之二終

K120.8

明治十八年八月廿五日版権免許
同治二十年九月出版
同治二十年二月十五日再版御届
同治二十年二月出版

編者兼
出版人

東京府平民

井上蘇吉

東京神田區裏神保町壹番地
壹番地

東京神田區裏神保町壹番地

澤屋蘇吉

發兌書肆

同日本橋區吉川町六番地

島屋一介

K120.8-6-1

賣

東京日本橋通三丁目

丸善書店

同本町三丁目

金港堂

同銀座四丁目

博聞社

捌

同南傳馬町壹丁目

叢書閣

大阪備後町

梅原龜七

所

同心齋橋筋北久宝寺町

叢書閣

京都河原町通二条下ル

大黒屋書舗